

第一回 丸山眞男文庫記念講演会

丸山眞男の世界

講師：隅谷三喜男氏
（東京女子大学元学長 東京大学名誉教授）

日時：1999年5月25日(火) 15:00～ ※開場(14:50)

場所：東京女子大学（東京都杉並区善福寺2-6-1）

（JR西荻窪駅北口又は吉祥寺駅東口よりバスにて「女子大前」下車）

入場無料（申し込み不要）

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男氏は、昭和の日本を代表する知識人でもありましたが、その思索の跡を伝える、三万冊の蔵書と三万頁の手稿が、東京女子大学に寄贈されることになり、今年三月末に図書類大半の搬入を終え、調査と整理の作業が始まりました。

東京女子大学は、新しく設立される文庫が、今後、丸山眞男研究の拠点となり、貴重な資料が活用されることを祈念し、第一回丸山眞男文庫講演会を開催することにいたしました。どうぞお誘い合わせのうえご来聴下さいますよう、ご案内申し上げます。

問い合わせ先 東京女子大学図書館内「丸山眞男文庫記念講演会」係 TEL 03 (5382) 6284

主催 東京女子大学

講師紹介

隅谷 三喜男 氏 すみや・みきお

1916.8.26～

労働経済論・工業経済論専攻。東京都生まれ。1941(昭 16)年東大経済学科卒。旧満州の昭和製鋼所を経て戦後大学に戻り、48 年助教授、55 年教授。労働問題の研究に精力的に取り組み、「賃労働の理論について」(54 年)では労働問題研究を社会政策学の伝統的枠組みから解き放ち、独自の理論を打ち出した。『日本賃労働史論』(55 年)は賃労働の理論を日本の明治前期における労働者階級の形成史の研究に適用した代表的著作であり、工業経済論として『日本石炭産業分析』(68 年)が代表作である。

また、キリスト教徒としての立場からも『近代日本の形成とキリスト教』(55 年)を著す。65 年経済学部長、69 年には東大紛争に際し総長特別補佐を併任。77 年定年退官後、信州大教授を経て、東京女子大学長となる。82 年日本学士院会員。80 年には中山伊知郎のあとをうけて日本労働協会会長ともなる。このほか、雇用審議会会長、社会保障制度審議会会長などを歴任。また、世界平和アピール七人委員会委員としても活動。他に著作として『日本労働運動史』(66 年)、『日本石炭産業分析』(68 年)、『韓国の経済』『労働経済論』(ともに 76 年)、『日本社会思想の座標軸』(83 年)、『アジアの呼び声に答えて』(90 年)、『成田の空と大地』(96 年)などがある。

講演要旨

丸山眞男（敬称略）は世界的に知られた「日本政治思想史」の学者である。その専門の関係で徳川時代の荻生徂徠や、明治前半期の福澤諭吉の歴史的な、同時に歴史を超える思想を解明した。しかし丸山の場合はそうした日本の政治思想史の枠を越えて、〈人間として生きた思想〉を掘り起こすことを目標とし、大きな成果をあげたのである。

彼は第二次大戦の前後の混乱期に、我々はどう考え、どう生きるかを探求した。その蔵書は政治史の枠を越えて、我々日本人のもっている基盤をめぐって豊かな素材を与えてくれるであろう。この豊かな知識の蔵を持つことによって、思想の枠を越えて、どう生きるべきかを問いかけられるであろう。

第二回
丸山眞男文庫記念講演会

丸山眞男とその時代

講師：福田 勲 一 氏

(東京大学名誉教授・日本学士院会員)

※ 講演要旨と講師紹介は裏面に掲載

日 時：2000年5月31日(水) 15:00～ (開場は14:50)

場 所：東京女子大学講堂 (東京都杉並区善福寺2-6-1)

- ・ JR西荻窪駅北口からバス(吉祥寺行き)で「女子大前」下車
- ・ JR吉祥寺駅東口からバス(西荻窪行き)で「女子大前」下車

入場無料(申し込み不要)

・ 問い合わせ先：東京女子大学図書館内「丸山眞男文庫記念講演会」係 Tel. 03(5382)6284

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男は、昭和の日本を代表する知識人でもありましたが、その思索の跡を伝える二万冊の蔵書と三万頁の手稿類が、1998年に東京女子大学へ寄贈されました。東京女子大学は、日本における丸山眞男研究の拠点となり貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理の作業を開始するとともに講演会等をも開催してきました。

どうぞお誘い合わせのうえご来聴下さいますよう、ご案内申し上げます。

主催 東京女子大学

講師紹介 | 福田 歎一氏 (1923. 7. 14～)

政治学専攻。神戸市生まれ。旧制一高在学中、南原繁東大教授著『國家と宗教』の批判精神に感激して法学部に進み、「学徒出陣」での軍務を生き延びて1947年政治学科を卒業。大学院特別研究生として南原教授の指導を受け、1951年に助教授に採用されて、恩師の講座を引き継いだ。1961年～1984年教授、この間東大法学部長、日本学術会議会員、日本政治学会理事長も努めた。専攻においては、ホッブス、ロック、ルソー等の政治思想を徹底的に分析して、近代政治原理の基本的な特徴を明晰に取り出し、とくに社会契約説の重要性を的確に指摘した。カントに至る研究をまとめた『近代政治原理成立史序説』(1971年)は日本における政治思想研究に大きな影響を与えた。

これを出発点として『近代民主主義とその展望』(1972年)等の作品で、変動する現代政治の中での民主主義の可能性を問い続けるとともに、『國民國家の諸問題』(1976年)で近代国民國家の限界を先駆的に指摘し、政治社会論のひろい文脈を示した。一方、雑誌「世界」を中心に、日本の民主主義や平和について活潑な論陣を張り、論壇にも足跡を残している。東大定年後は迎えられて明治学院大学国際学部開設に尽力し、1990～1996年学長。1992年には日本学士院会員に選定され、1998年岩波書店から著作集全10巻を公刊した。また共通の恩師南原繁の業績を集成公刊するために、終始丸山眞男と協力してきた。

講演要旨 |

明治以来、日本は学問においても分業によって能率よく先進国の水準をめざしてきたが、その反面、人間のいとなみの統一的理解を見失いがちであった。J.S.ミルの「すべてについて何事かを知り、あることについてすべてを知る」という言葉を愛した丸山は、学生時代すでにひろい関心をもって、諸学はもとより、文芸、演劇、音楽、映画に及ぶ教養のうちに、知性と感性とをはぐくみ、南原繁教授との出会いによって職業としての学問を選び、日本政治思想史を専攻した。この恩師のライフワークを紹介する丸山の一文に「超学問的な動機が厳密な学問的操作を押し進め、現代に対する切実な問題意識が純粋な歴史研究と奥深いところで契合している」とあるが、それはそのまま丸山の日本政治思想史学の特徴を示している。1929年の世界恐慌以後、近代日本が根本的に問われ、破局に向かう時代に、丸山は与えられた専攻を独立の学問に高める見事な業績を築いたからである。

帝国陸軍の一兵卒としてヒロシマを生き延びた丸山が、戦後日本の政治学をリードするとともに、近代日本を分析し、世界的視野のもとにその課題を提示しつづけたのも、時代との新しい格闘であった。本来の専攻のほかに、政治学全般にわたる仕事、さらにはジャーナリズムに及ぶ言論活動を、丸山は「本店と夜店」という比喩で表現したが、50年代の病氣以後、「夜店」を整理して「本店」の経営に専念し、古代に遡って日本思想史の構成に取り組んだ。その間にも60年安保などに積極的に発言し、再び病に冒されてのちも、時代への関心を失わず、最後まで発言をつづけた。この講演では、彼の精神と活動とのダイナミズムを、時にはエピソードをまじえて跡づけるとともに、戦後日本の閉塞が言われ、その歩みに混迷がつづいている現在、批判精神を受けつぎ、次の時代に生かしていくことの意味に及びたいと願っている。

第三回
丸山眞男文庫記念講演会

私の出会った丸山眞男

～ 戦後日本の座標軸 ～

講師： **武田 清子氏**

(現)国際基督教大学名誉教授
(元)世界教会協議会(WCC)会長

日時： **2001年10月24日(水) 15:00～**

(開場は14:50)

場所： **東京女子大学** (東京都杉並区善福寺2-6-1)

- ・ JR西荻窪駅北口からバス(吉祥寺行き)で「女子大前」下車
- ・ JR吉祥寺駅東口からバス(西荻窪行き)で「女子大前」下車

入場無料(申し込み不要)

・ 問い合わせ先：東京女子大学図書館内「丸山眞男文庫記念講演会」係 Tel 03(5382)6284

主催 **東京女子大学**

【講師紹介】 武田清子氏

1917年6月20日～。近代日本思想史家。兵庫県生れ。本名・長清子。キリスト教など外来思想と日本の伝統思想との出会い・相剋を追求する思想史家。

1939年神戸女学院大学部（旧制）に在学中、世界基督教青年会議出席のため渡欧。ひきつづき交換学生として渡米し、1941年オリベット大学卒業。ユニオン神学校で学び、1942年交換船で帰国した。日本基督教女子青年会（YWCA）に勤務し、幹事となる。戦後は、鶴見俊輔、丸山眞男らと1946年「思想の科学」創刊同人となる。

クリスチャンである武田は、日本の土着思想とキリスト教との出会い(encounter)の課題の追求を終生のテーマとしているが、とくに天皇制の問題については独自の考察を提示している。1953年より国際基督教大学に移り、1961年教授に就任。同大学アジア文化研究所長も務めた。1978年『天皇観の相剋－1945年前後』で毎日出版文化賞。1983年には20年がかりの労作『アジアにおけるキリスト教比較年表』を公刊した。夫は経済学者・長幸男氏。

現在：国際基督教大学名誉教授。

元：世界教会協議会(WCC)会長。

著書：『人間観の相剋』、『土着と背教』、『正統と異端のあいだ』、『天皇観の相剋』、『戦後デモクラシーの源流』、外。

編著：『思想史の方法と対象』、『日本文化のかくれた形』、外。

【講演要旨】 私の出会った丸山眞男 ～ 戦後日本の座標軸 ～

戦後、米ソ対立の冷戦状況のもと、日本の民主化を模索する中で、「思想の科学」創立同人として丸山眞男さんに初めて出会う。これと平行して、岩波書店編集長・吉野源三郎氏の招請を受け、「平和問題談話会」に参加、丸山さんはその着手の指導的メンバーであった。その頃、私の勤めていたYWCAでお話いただいたこともあった。天皇制研究については、氏の諸論文から学ぶと共に、個人的にいろいろ貴重な助言をいただいた。

新しく創設された国際基督教大学(ICU)に移ってからは、「思想史の考え方」、「日本文化論」、「まつりごとの構造」、「原型・古層・執拗低音」など、非常に興味深く、かつ、重要な意味をもつ講演・講義を大学で幾度かして下さった。Oxford大学のSt. Antony's CollegeにはRichard Storry副学長の招きで、1975年春学期には丸山教授、秋学期には私が行った。Storry記念委員会の委員をも共につとめた。

こうした個人的出会いの思い出を通して、丸山教授の人と思想を語りたいと思う。

丸山眞男文庫

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男は、昭和の日本を代表する知識人でもありましたが、その思索の跡を伝える約二万冊の蔵書と約三万頁の手稿類が1998年に東京女子大学へ寄贈されました。東京女子大学は、日本における丸山眞男研究の拠点となり貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理の作業を開始するとともに講演会等をも開催してきました。

どうぞお誘い合わせのうえご来聴下さいますよう、ご案内申し上げます。

第四回
丸山眞男文庫記念講演会

1930年代の恐怖の持続

講師：鶴見俊輔氏

日時：2002年11月22日（金） 15：00～

（開場は14：30）

場所：東京女子大学（東京都杉並区善福寺2-6-1）

- ・JR西荻窪駅北口からバス（吉祥寺行き）で「女子大前」下車
- ・JR吉祥寺駅東口からバス（西荻窪行き）で「女子大前」下車

入場無料（申し込み不要）

- ・大きな会場ですので収容人員には十分な余裕があります。したがって事前の申込みは受け付けておりませんが、ご安心の上、気軽にご出席下さい。
- ・問い合わせ先：東京女子大学図書館内「丸山眞男文庫記念講演会」係 Tel 03(5382)6283

主催 東京女子大学

【講師紹介】 鶴見俊輔氏

1922年6月25日～

東京生まれ。評論家。1937年渡米、1942年ハーヴァード大学哲学科卒業。バチェラー・オブ・サイエンス。最後の3ヶ月は留置場と捕虜収容所。6月10日に米国を離れた交換船で8月20日帰国。1943年2月、海軍軍属としてバタヴィア在勤海軍武官府に勤務。胸部カリエスのため内地に送還され、敗戦を内地で迎える。1945年、雑誌「思想の科学」の創刊に参加。丸山眞男、都留重人、武谷三男、渡辺慧、武田清子、鶴見和子、私が創刊同人。京都大学人文科学研究所、東京工業大学、同志社大学に勤務。1970年以後は自由業。声なき声の会、ベ平連に参加。『アメリカの哲学』ほかの著述。

【講演要旨】 1930年代の恐怖の持続

丸山眞男をつつむ1930年代の恐怖についてお話したい。

この恐怖を丸山さんは生涯忘れていない。一高生になったときの、唯物論研究会出席で留置場に入ったときから、軍隊に入り、原爆投下を近くで体験、やがて軍隊で敗戦を迎えるときまで丸山さんは、包囲されているという恐怖から離れたことはなかったと思います。そのことが、丸山眞男の学問に与えた影響について考えたい。

丸山眞男の学問を、ある程度には、価値から中立した活動にしたいと考えていました。そのことからすると、自分をおしつづんでいるものに対して、みずからの恐怖感と嫌悪感をこえて、それを見きわめたいと思っていた。そのことは、戦争中の書評の系列から晩年の「山崎闇齋と闇齋学派」にあらわれています。

丸山眞男文庫

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男は、昭和の日本を代表する知識人でもありましたが、その思索の跡を伝える約二万冊の蔵書と約三万頁の手稿類が1998年に東京女子大学へ寄贈されました。東京女子大学は、日本における丸山眞男研究の拠点となり貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理の作業を開始するとともに講演会等をも開催してきました。

どうぞお問い合わせのうえご来聴下さいますよう、ご案内申し上げます。

第五回
丸山眞男文庫記念講演会

丸山眞男先生とアメリカ

ハーヴァード大学教授
講師：入江 昭 氏

日 時：2003年6月26日(木) 15：00

(開場は14：30)

場 所：東京女子大学 2号館 2102教室

(東京都杉並区善福寺2-6-1)

- ・JR中央線「西荻窪駅」北口からバス(吉祥寺行き)で「女子大前」下車
- ・JR中央線「吉祥寺駅」東口からバス(西荻窪行き)で「女子大前」下車

入場無料(申し込み不要)

・問い合わせ先：東京女子大学図書館内「丸山眞男文庫記念講演会係」Tel 03(5382)6283

主催 東京女子大学

【講師紹介】 ^{い り え あきら} 入江 昭 氏

1934年東京で生まれる。1953年成蹊高校卒業後、米国に留学、1957年ハヴァフォード大学卒業、1961年ハーヴァード大学歴史学部博士課程終了。その後米国の諸大学で教え、現在ハーヴァード大学歴史学部教授。この間1988年から米国歴史学会会長をつとめた。専攻は米国外交史、国際政治史。最近の主な著書（日本語）、『20世紀の戦争と平和』『日米関係50年』『米中関係のイメージ』『権力政治を超えて』『グローバルな平和のために』のほか英語・日本語両方の著作が多く、それに対して、吉野作造賞、吉田茂賞を受けた。（なお、丸山眞男へのすぐれた追悼「丸山先生に遊び方を教わる」、みすず編集部編『丸山眞男の世界』みすず書房、1997年 所収がある）。

光子夫人は、東京女子大学に学んだ（1959年 英米文学科卒業）後、ハーヴァード大学で、比較文学を学び博士号を取得、永井荷風の『あめりか物語』の英訳（コロンビア大学出版部刊）に対して、日本翻訳家協会奨励賞を受けた。東京女子大学『学報』2001年3月号にこの間の歩みを振り返った、美しいエッセイを寄せられている。

【講演要旨】 丸山眞男先生とアメリカ

私は丸山先生の学問的な専門分野にかんしては門外漢だが、アメリカにおいて、あるいはアメリカにかんして、先生から教えられたことは実にたくさんある。

今回は、アメリカという枠組みの中で見た丸山眞男先生について、考えてみたい。

先生が1930年代、東大法学部の学生、そして助手時代に、アメリカの政治学者の本を多数読まれたことを、しばしば語られていた。日米関係が陰悪だった当時、アメリカの学界を高く評価されていたのは、注目に値する。私は1960年代から1970年代にかけて、アメリカで先生とお目にかかる機会が何度かあったが、アメリカでの生活をエンジョイされているような印象を受けた。アメリカの自然に親しみ、オペラを鑑賞し、社会の庶民性を高く評価されていた。またその反面、米国の外交や軍事政策に対しては、きわめて批判的だった。今日のアメリカについて、先生のお考えをうかがえないのが残念である。

丸山眞男文庫

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男は、昭和の日本を代表する知識人でもありましたが、その思索の跡を伝える約二万冊の蔵書と約三万頁の手稿類が1998年に東京女子大学へ寄贈されました。東京女子大学は、日本における丸山眞男研究の拠点となり貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理の作業を開始するとともに講演会等をも開催してきました。

どうぞお誘い合わせのうえご来聴下さいますよう、ご案内申し上げます。

第6回 丸山眞男文庫記念講演会

社会科学者・丸山眞男

講師：アンドリュー・バーシェイ氏
(カリフォルニア大学 バークレイ校教授)

講演は日本語で行われます

2004. 6. 25 (金) 15:00~16:30
(開場 14:30)

東京女子大学 善福寺キャンパス 24202教室

申込不要・入場無料

東京女子大学善福寺キャンパスへのアクセス

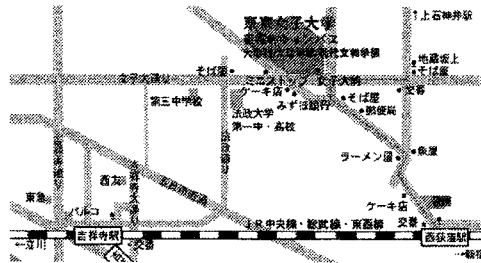
■西荻窪駅北口より徒歩12分

■バス利用の場合

西荻窪駅北口(1番のりば)から吉祥寺駅行、女子大前下車。

吉祥寺駅北口(3番のりば)から西荻窪駅行、女子大前下車。

上石神井駅南口より西荻窪駅行で地蔵坂上下車徒歩5分。



[問合せ先] 教育研究支援課 ☎ 03-5382-6454 (直) 東京都杉並区善福寺2-6-1 URL <http://www.twcu.ac.jp>



Tokyo Woman's Christian University

東京女子大学

【講師紹介】 アンドリュー・パーシェイ氏

1953年、ワシントンDC生まれ。カリフォルニア大学バークレイ校卒。日本語で学士号(1975年)、アジア研究で修士号(1980年)、歴史研究で博士号(1986年)をそれぞれ取得。ウェズレイン大学(コネチカット)、ウィスコンシン-マディソン大学で教えた後、1989年カリフォルニア大学バークレイ校歴史学部のスタッフとなり、現在、歴史学教授。1995年以来バークレイ校日本研究センターの所長を兼務。著書に *State and Intellectual in Imperial Japan* (University of California Press, 1988; paperback, 1991)[日本語訳『南原繁と長谷川如是閑：国家と知識人；丸山眞男の二人の師』ミネルヴァ書房、1995年]、*The Social Sciences in Modern Japan: The Marxian and Modernist Traditions* (University of California Press, 2004)がある。現在の研究テーマは「神々が最初に去った：日本帝国の崩壊と北東アジアからの日本人の引揚、1945-1956」である。

【講演要旨】 社会学者・丸山眞男

丸山眞男は多くの方法で描くことができる。彼は歴史家であり、政治思想家であり、また知識人であった。そして彼は社会学者でもあった。この講演では、戦後日本の社会学者としての彼を、その指導的役割とあわせて考察したい。そうした位置を占めることは、歴史的にみて何を意味したのか。この問いは三重の答えを求めるであろう。

指導的な社会学者としての丸山は、同時に多くの中のだ一人の社会学者であった。第一にこの分野での彼の仕事は、1945年後の日本の社会科学を支配した思想潮流、とくにマルクス主義と「近代主義」とよばれる流れのなかに位置づけられねばならない。さらに丸山の公的生活は、先進産業社会一般、とくに米国における社会科学の高潮と軌を一にしていた。そこで米国の社会科学による学問的貢献とその担い手に対する丸山の反応を評価することが、講演の第二の目的となる。ところで戦後日本の指導的・代表的な社会学者として丸山は、やがて国外でも知られるようになった。米国ではかなり広く知られたが、知られたのは米国に限られなかった。そこで第三に、丸山が英語圏の読者によっていかに解釈されてきたかを検討することが、この講演の最後の目的となる。

以上のような三重の吟味によって、丸山自身の仕事だけでなく、近代日本において社会科学の果たした歴史的役割にも光を当てることが出来ればと願っている。

丸山眞男文庫

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男は、昭和の日本を代表する知識人でもありましたが、その思索の跡を伝える約二万冊の蔵書と約三万頁の手稿類が1998年に東京女子大学へ寄贈されました。東京女子大学は、日本における丸山眞男研究の拠点となり貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理の作業を開始するとともに講演会等を開催してきました。どうぞお誘い合わせのうえご来聴下さいますよう、ご案内申し上げます。